研究内容の概要

※ 該当する部分を■にして下さい。■その他の場合は()内に内容を記載して下さい。

□介入研究(医薬品・医療機器を使用する) □介入研究(医薬品・医療機器を使用しない) ■観察研究 □ヒトゲノム・遺伝子解析研究 □その他()	
研究課題名	新規敗血症診断マーカーの測定系の開発
責任者所属•氏名	所 属:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻生体機能制御学講座 麻酔・蘇生学分野 責任者名:森松 博史
使用する医薬品 医療機器等	□使用あり ■使用なし 本研究対象疾患に対する薬事承認 □有 ■無 □その他() 保険適応 □有 ■無 □その他()
侵襲の有無	□侵襲あり □軽微な侵襲あり ■侵襲なし
介入の有無	□介入あり ■介入なし
	司研究
敗血症は依然とし 僅かである。Histidii 重症敗血症患者を選 トの削減に大きく寄 本研究は、HRGの 性能評価を実施して 断用医薬品の開発, 本研究に関連して な特許を申請できる ステロイドとは全く	(研究の意義・目的、方法、企業からの資金を用いるか・将来を含めて特許権及び経済的利益を生み出すか等について簡明にご記載下さい)〔400字程度〕 て死亡率が非常に高い重篤な病態であるが、検査法や治療法として確立されたものはne-Rich Glycoprotein (HRG)が敗血症の診断・重症度マーカーとして確立すれば、別してより迅速かつ効率的な集中治療が可能となり、生存率の改善や更には医療コスラできる。 D敗血症診断マーカーとしての有用性を明らかにするために、HRGの測定系を構築、新規敗血症診断マーカーの測定系を開発することを目的とする。将来的には、体外診販売を予定しており経済的利益を生み出す可能性がある。 基幹部の特許は取得しており、今後は別途の研究も含めた総合的な結果により、新た可能性がある。また、新規敗血症治療法としてHRGを補充することで、抗炎症薬や可能性がある。また、新規敗血症治療法としてHRGを補充することで、抗炎症薬や異なる作用機序により敗血症誘発多臓器不全の発生を抑えて、死亡率を低下させる可費用は、塩野義製薬株式会社から資金提供を受けて実施する。
試料を用 □試料 的にご □試料 究に ■既存 既存 研	いる,口試料を用いない

亡率が高いこと、再来院がない患者が多いことから、再同意取得が困難な対象者に は拒否機会を設けた情報公開を行う。研究倫理審査専門委員会承認後に検体を採取 する対象者については、文書を用いて説明・同意を取得する。 ■情報公開を行い,個別の同意に代える。 ■情報を用いる、口情報を用いない □既存情報以外も用いる, ■既存情報のみ用いる □試料を組織・細胞・遺伝子バンク等へ登録する, ■登録しない 4) 対象疾患及び研究対象者 対象疾患名: (敗血症を含めた全身性に炎症を認める患者)) ■患 者 ■健常者 口その他(5) 個人情報分担管理者 ■設置しない 口設置する 6) 研究フロー図 ※簡単に記載して下さい。 対象患者選定 デ \Box 採血 常診 意取 得 療 得 HRG値を測定して評価 既存試料• 情報